



毎月十五日発行 所 社会 像 宗像 電話 0940-62-1311 定価 一年送料共 1000円

神具・装束 株式会社 井筒 福岡店 福岡市博多区東公園二二二(千代) 電話 福岡(094)651-1945

国宝・重要文化財一堂に会す

沖ノ島神社修理工事了える



八月五日午後一時、沖ノ島出土神宝約五〇〇点が、美術車に載せられ、松井洋行より宗像大社神宝館に到着し返納された。

が重要文化財に指定された昭和三十二年頃より、全ての沖ノ島神社の修復・保存の計画が持ち上がった。

五十六年には「沖ノ島古代祭祀遺跡出土品修復事業」が、東京国立博物館内に修理作業の工房を持つ松井洋行の手で始まった。

先ず全ての品々の水洗い、金属製の品々は、乾燥後、錆止め、錆防止薬液注入、復元作業、アクリル加工を次々と施し、最後には表面の薬品による光沢を落す作業

を行ない終了である。ここに一品一品に長い工程を費やし、ようやく全てが一六〇〇一〇〇〇年前の奉獻時代の昔の光沢を帯びた姿にみえたと。

昭和三十四年・三十五年の調査に、第一次・第二次調査により出土した神宝が重要文化財に指定される。

昭和三十七年、この内四〇〇〇点が国宝に指定される。昭和三十四年・三十六年、第一次・第二次調査により出土した神宝が重要文化財に指定される。

昭和三十七年、この内四〇〇〇点が国宝に指定される。昭和三十四年・三十六年、第一次・第二次調査により出土した神宝が重要文化財に指定される。

去る八月十四・二十五の両日、第十一回教学研究大会が本庁講堂に於いて開催された。その内容については本紙記事に譲って、ここでは筆者の感想並びに意見を述べてみたい。

第一日は、「神職とは何か」を主題とする共同討議で、三名のパネリストに四名のコメンテーターが配られた。

第二日は、「神職を職業としていかに考へるか」(一)神職は一般人とどこが違うのか(二)神職の任務・職務の範囲、

平均年齢、資質問題から養成に関する問題まで、極めて重要な課題が提起され、議論が盛んである。しかし、

この事については、かきかへられるといふ、共同討議の在り方について、筆者は演説者か講壇を置けば当然、

去る八月十四・二十五の両日、第十一回教学研究大会が本庁講堂に於いて開催された。その内容については本紙記事に譲って、ここでは筆者の感想並びに意見を述べてみたい。

去る八月十四・二十五の両日、第十一回教学研究大会が本庁講堂に於いて開催された。その内容については本紙記事に譲って、ここでは筆者の感想並びに意見を述べてみたい。

去る八月十四・二十五の両日、第十一回教学研究大会が本庁講堂に於いて開催された。その内容については本紙記事に譲って、ここでは筆者の感想並びに意見を述べてみたい。

教学とは何かを問ふ

去る八月十四・二十五の両日、第十一回教学研究大会が本庁講堂に於いて開催された。その内容については本紙記事に譲って、ここでは筆者の感想並びに意見を述べてみたい。

去る八月十四・二十五の両日、第十一回教学研究大会が本庁講堂に於いて開催された。その内容については本紙記事に譲って、ここでは筆者の感想並びに意見を述べてみたい。

去る八月十四・二十五の両日、第十一回教学研究大会が本庁講堂に於いて開催された。その内容については本紙記事に譲って、ここでは筆者の感想並びに意見を述べてみたい。

去る八月十四・二十五の両日、第十一回教学研究大会が本庁講堂に於いて開催された。その内容については本紙記事に譲って、ここでは筆者の感想並びに意見を述べてみたい。

去る八月十四・二十五の両日、第十一回教学研究大会が本庁講堂に於いて開催された。その内容については本紙記事に譲って、ここでは筆者の感想並びに意見を述べてみたい。

去る八月十四・二十五の両日、第十一回教学研究大会が本庁講堂に於いて開催された。その内容については本紙記事に譲って、ここでは筆者の感想並びに意見を述べてみたい。

去る八月十四・二十五の両日、第十一回教学研究大会が本庁講堂に於いて開催された。その内容については本紙記事に譲って、ここでは筆者の感想並びに意見を述べてみたい。

去る八月十四・二十五の両日、第十一回教学研究大会が本庁講堂に於いて開催された。その内容については本紙記事に譲って、ここでは筆者の感想並びに意見を述べてみたい。



第三八七回 宗像大社歌会詠草 中村 吾郎 選 毎月末日、切

鐘崎 安水 久子 四十五年手染染たる算盤に今日が最後の面び弾く

大島 目原 節子 露よけて行く野の路の幾とこ山百合咲けり荒草の中

朝町 古田千代子 朝の雲をついばむ百舌は一斉に飛びたれり行けり我が足

田熊 鷲頭かつ代 ラジオにも雨にも飽きて今日もまた所在無きまま宙に

自由ヶ丘 津江富美子 堀越しに枝もたわなわ梔子は雨の歩道に香をたただよ

池田 小田しめめ 梅雨明けも間近ならん川辺の半夏生の葉白く増

福間 池浦千鶴子 田の草を取ると並びに鷺の三列に歩くが遠くより見

大島 河野 英子 古橋迎へ互ひに老いしわれ等にもクラス会なれば若さ

武丸 中村さつき 五位鷺の啼きつつ渡る声哀し晩の臥処にさめて聞き

原町 八波 五月 長梅雨の明けて今宵は夏祭り打ち上げ花火を響く

名古屋 小田 留子 晴れ待ちて散歩にはきしスニーカーいたく濡りて梅雨

赤間ヶ丘 中武 あさ 解体の機械が動き竜巻の如くに家の壊れてゆく

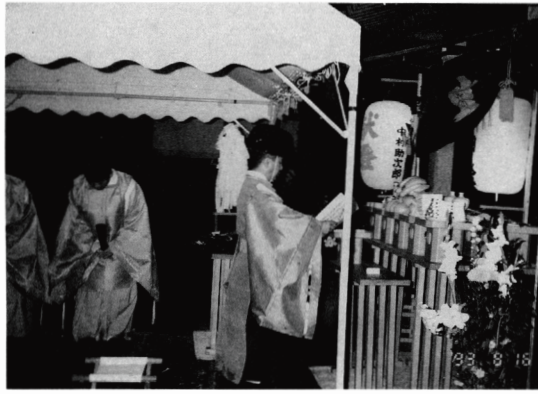
池田 小田 いせ 梅の実は叩き落とされ痛む木のたに寂しく果然と立

吉留 白木ゆめめ 三百メートルの山頂極め杉の息を聞きつつ山道下る

福間 山田よし子 皇居にて清掃する身の幸せに揺れる鎌に力の籠る

宗像護国神社

戦没者慰霊祭・千灯明



宗像護国神社恒例の戦没者慰霊祭並「千灯明」は、八月十五日が雨の延期となり、翌十六日、午後七時より、宗像郡・市道族会々員、地元育成会児童等約二〇〇名参列の下、厳肅盛大に肅行された。

当日は、前日迄の雨も止み、地元田島地区育成会の深田会長以下役員父母の御奉仕により、二〇〇対の提灯と二〇〇基の灯明の飾付け並びに境内清掃奉仕が行われ、郡・市出身の戦没者二五〇〇余柱の英霊を御慰め、光の祭典準備が整えられた。

定刻午後七時、夕闇迫る境内では、児童の手によって、一斉に二〇〇基の灯明が点灯され、戦没者慰霊祭

が当社山田栞宜を総王に、神職三名奉仕の下肅行。神前には、海の幸、山の幸に加え煙草、笛笛等も供えられ、修祓の後、齋王が我が国の為を以て尊い生命を捧げられた二五〇〇余柱の英霊に対し、感謝と追悼の意を表すと共に、更なる世界の平和と繁栄、御遺族の幸福無事を祈念する祝詞を奏上、続いて玉串拝礼が行われ、宗像市道族会出光太蔵会長、道族会会長島純孝会会長以下道族会々員、玄海町市長代理白木助俊、玄海町町長以下道族会々員、玄海町町長川野議員、丸山田島区々長、田島区育成会深田会長以下役員と児童等二〇〇名余りの参列者が、護国の英霊に対して敬虔な祈りを捧げた。

祭典終了後、境内に於て地元田島区育成会児童等による子供花火大会と、田島区住民により盆踊り大会が催された。

真夏の夜の更けるのも忘れた、老若男女一つになって心ゆくまで楽しんで来た。

二九km、空船時速力十七ノット(約三二km)の能力を持ち、これからの日本エネルギーの為に大いに期待が持たれる。

出光タンカー

「沖ノ嶋丸」鎮座祭斎行

広島県呉市の石川島播磨重工業(株)第一工場にて建造中であつた出光タンカー「沖ノ嶋丸」(二十五万八千噸)が竣工、同船ブリッジを奉斎する鎮座祭を八月二十五日午後二時より、また翌十六日午前九時四十分より鎮座祭祝祭を各々厳肅に肅行した。

祭典は兼父宮司以下神職四名が出向奉仕、鎮座祭では当社より奉斎した御分霊を、同船操縦室の神前へ無事奉安した。翌日の鎮座祭祝祭には出光産物社長出光裕治氏、出光タンカー(株)社長窪田雄一郎氏外関係

者、沖ノ嶋丸船長渡辺美雄氏外乗組員が参列、神前に玉串を捧げ航海安全を全員で祈念した。

次いで左右のブリッジにて清祓の神事を行い、祭典も滞りなく終了した。会場を祝賀会会場に移し盛大に祝賀パーティーが行われ、この出光の新造タンカーは省エネルギー化の為に二軸に二重の反転プロペラを二基装着し従来に比べ約四四%の省燃費を計っており、石川島播磨重工業(株)では初の實現化で国内でも未だ二隻目である。乗組員は日本人九名、フィリピン人十八名の新マッシュアップという混乗船で、衛星通信で世界中

どこからでも電話、テレックスが出来、最近車に搭載された衛星ナビゲーションシステムを装着し衛星航法により船舶の位置が自動的に確認出来ると共に船舶衛星テレビ等、数多の最新鋭機器を搭載している。

全長三三三米、幅六〇二米、載貨量約一〇九〇〇噸、満載排水力十五七ノット(約



出光タンカー「沖ノ嶋丸」の竣工式の様子。乗組員と関係者が集まり、船を祝福している。

秋季大祭近し

神都宗像に秋の訪れを告げる当社恒例の秋季大祭が十月一日から三日に亘り盛大に肅行される。

古くから、柿も生妻も放生会、といわれ、今より約七百年前時の大宮司氏経が始めたといわれ、大漁満足、五穀豊稔と万民和楽を共に喜び合つ、宗像郡民あけてのお祭りであり、郡内の各会場で各種イベントが行われ大いに賑わう。

秋季大祭は一日の「みあれ祭」で幕を開ける。宗像郡内外各漁協より約四百隻の漁船が大馬路に集結し、先導船を先頭に沖中両宮の御神璽を奉斎した御座船供奉船等が出港し、船首に波切御旗を付け紅白の吹き流し、大漁旗を飾りながら地ノ沖沖から鎌倉を迂回し、辺津宮御神璽の待つ神楽港へと、壮麗な海上絵巻をくぐり立ける。

大祭に先立ち九月十一日には沖津宮御神璽迎え神事が肅行された。兼父宮司以下神職と、沖中両宮奉賛会、賑職、中内両宮奉賛会、賑職、中津宮御神璽迎え神事を肅行する。兼父宮司以下神職と、沖中両宮奉賛会、賑職、中津宮御神璽迎え神事を肅行する。

筑前大島 中津宮七夕祭

例年ならば眩しい陽光が降り注ぎ、磯の香漂うこの筑前大島も、本年は連日降り続き、秋を感じないままに秋を迎えた。そんな中津宮恒例の七夕祭が肅行され、島民はもとより島外の人も一晩の夏を楽しんだ。

中津宮境内には、大島最高峰の御嶽山に源を発する清流「天の川」が流れ、この「天の川」が流れ、この「天の川」と織女が鎮座している。筑前大島は我が国七夕伝説発祥の地といわれている。この両社の神前で

職と、沖中両宮奉賛会、賑職、中津宮御神璽迎え神事を肅行する。兼父宮司以下神職と、沖中両宮奉賛会、賑職、中津宮御神璽迎え神事を肅行する。

当日早朝より沖・中内両宮奉賛会役員、同敬婦人部会などの八月七日(土)、中津宮恒例の七夕祭が肅行され、島民はもとより島外の人も一晩の夏を楽しんだ。

祭壇が設けられた。更に幼稚園児が持参の上取り付けた短冊や折紙を始め、島民の願いを込めた色取り取りの短冊、風船などで装飾された笹竹が境内や参道に立ち並ぶ。準備もすっかり整い、後には祭典を待つばかりとなっ

午後三時頃より雲行きが怪しくなり、暫く様子を見ていたが、夕刻には次第に雨音も強まりやむを得ず祭場を照海殿に変更、急遽祭場の再弁備にあつた。夕刻八時、日原奉賛会会長、杉田村長を始め島内外の人々が多数参列する中津宮恒例の七夕祭が肅行され、島民はもとより島外の人も一晩の夏を楽しんだ。

祭壇が設けられた。更に幼稚園児が持参の上取り付けた短冊や折紙を始め、島民の願いを込めた色取り取りの短冊、風船などで装飾された笹竹が境内や参道に立ち並ぶ。準備もすっかり整い、後には祭典を待つばかりとなっ

つとま続いた。

一方境内では、大島村青銅製の部分から銀象嵌の細工が明瞭した。これは洗淨後に「行」エックス線照射作業により、鉄身の錆の下から細く出された模様影像が、浮き出されての発見である。この七つ祭は土曜日に今年もあつた。土曜日出る人もなく、生憎の天候であつたが、夜の更ける迄参拝者が大いに賑わった。

銀象嵌のある刀 一誌一話 (27)

樂 杏 子

ミリ程度の二本の細い銀の糸の並列を一本として組む合わせの沈線、合計十八本の放射状に走る線刻よりなっている。細い銀の針金を埋め込んだ簡単な線引き模様である。

刀身の鍔の銀象嵌は、鉄身の磨蝕が激しく、剥落している部分が多いが、流水文とまきようの絵柄の花柄文の組み合わせで、文様帯を製作している。一般にいう唐草文とは異なっているように思える。

古代刀剣等に象嵌を行っているものは、全国でも数少ないが、古墳からの出土品を含めて約二十例程といわれている。

この象嵌をもつ刀剣は、六世紀代から七世紀代までの出土品である。この時期は、日本を統一国家とした大和朝廷が、朝鮮の統一新羅との交渉期である。古く対外交渉で、荒い女界灘を渡り行く船の安全航海を祈りに、新羅製の品々が多く奉斎されている。特に七号遺跡からは装飾品として、馬具類が一括して出土している。金指輪などともにも供出された大半が、金色に彩られた新羅製の品々である。

この祭壇には、唐草文を金象嵌によって配置した鞍金具も奉られている。簡略な文様細工ではあるが、銀象嵌がなされた直刀も、他國より海を渡って招来され、一度大和の都に上つた後、遷はれて奉げられた他品目と同一体である可能性が強い。この様に祭壇奉納品にも、その時代背景がよく物語られている。

秋季大祭日程

九月三十日(木)	午後五時 総社地主祭
	午後六時 青宮祭
十月一日(金)	午前八時三十分 中津宮出御祭
	午前八時三十分 中津宮出御祭
	午前九時 大島港出港(みあれ祭)
	午前九時三十分 神楽港到着
	午前十時三十分 鎮座祭(雨天中止)
	午前十一時二十分 鎮座祭(陸上神幸)
	午前十一時四十分 辺津宮入御祭(主基地方風俗舞)
十月二日(土)	午前八時 流籠馬神事、南坊流籠口社
	午前八時 流籠馬神事、南坊流籠口社
	午前九時 流籠馬神事、南坊流籠口社
	午前十一時 例大祭(氏子奉幣・翁舞)
	午後二時 末社祭
十月三日(日)	午前十一時 高宮祭
	午前十一時 高宮祭
	午前十一時 高宮祭
	午後二時 宗像護国神社秋季大祭 献茶祭 (南坊流籠口宗芳社中)

宗像護国神社秋季大祭日程

宗像護国神社秋季大祭日程

宗像護国神社秋季大祭日程

